

## あわじ環境未来島構想の主な取組状況について



## 1 エネルギーの持続

## (1) 大規模未利用地における大規模太陽光発電事業の実施【総合特区事業】

## ア 事業概要

島内の土取り跡地等の大規模未利用地において、民間事業者が淡路地域の豊富な日照を生かして大規模太陽光発電事業を実施している。

県、地元3市としては、事業者に対する用地情報の提供、関係機関との調整の仲介などの誘致活動を実施しており、総合特区支援利子補給金の活用に向けた調整等を行っている。



住民参加型くとうみ太陽光発電所

## イ 現在の立地状況（出力が概ね1MW以上の施設で把握済のもの）

発電事業者	場 所	出力	発電開始	現 状
淡路市	淡路市生穂新島	1 MW	22年11月	稼働済
(株)下土井	淡路市北山	0.987MW	24年8月	稼働済
塩屋土地(株)	淡路市浜	2 MW	25年2月	稼働済
サンライズ(株)	南あわじ市中条中筋	1.6MW	25年3月	稼働済
(株)アーバンヴィレッジ	南あわじ市賀集野田	0.98MW	25年5月	稼働済
(株)Z E A R T H	洲本市五色町都志	0.99MW	25年7月	稼働済
(株)ウエストエネルギーソリューション	淡路市野島平林	1.378MW	25年8月	稼働済
(株)クリハラント	淡路市佐野新島	1.175MW	25年9月	稼働済
三恵観光(株)	洲本市上物部、千草	0.98MW	25年11月	稼働済
(株)大林クリーンエナジー	洲本市五色町鳥飼浦	0.99MW	25年11月	稼働済
(株)NTTファシリティーズ	洲本市安乎町平安浦	1.5MW	25年11月	稼働済
(株)森長組	南あわじ市福良	1 MW	25年11月	稼働済
(株)アーバンヴィレッジ	洲本市五色町鳥飼浦	0.99MW	25年12月	稼働済
ORソーラー(株)	淡路市志筑新島	1.99MW	26年3月	稼働済
(株)クリハラント	淡路市佐野新島	7 MW	26年3月	稼働済
(一財)淡路島くとうみ協会	淡路市岩屋	0.95MW	26年3月	稼働済
エナジーバンクジャパン(株)	洲本市由良町	8 MW	26年3月	稼働済
山佐産業(株)	淡路市大町下	1.972MW	26年3月	稼働済
(株)ホテルニューアワジ	淡路市志筑新島	4 MW	26年6月	稼働済
マルショウ運輸(株)	洲本市五色町鳥飼浦	0.98MW	26年6月	稼働済
サントピアマリーナ(株)	洲本市小路谷	1.5MW	26年9月	稼働済
(株)淡路貴船太陽光発電所	淡路市野島貴船	30MW	26年12月	稼働済
(株)ホテルニューアワジ	洲本市由良	1 MW	26年12月	稼働済
(株)アーバンヴィレッジ	洲本市安乎町ほか	0.96MW	27年1月	稼働済
兵庫県企業庁	淡路市佐野新島	1.99MW	27年1月	稼働済
ORソーラーツウ(株)	南あわじ市阿万西町	3.5MW	27年2月	稼働済
(株)共進ビルド	洲本市中川原町中川原	0.99MW	27年3月	稼働済
(株)アーバンヴィレッジ	淡路市岩屋	0.96MW	27年3月	稼働済
マルショウ運輸(株)	南あわじ市八木国分	0.99MW	27年3月	稼働済
(株)コウアツファクトリー	南あわじ市八木養宜上	1.2MW	27年3月	稼働済
(株)ホテルニューアワジ	洲本市五色町都志	1 MW	27年6月	工事着手済
(株)ユーラスエナジー淡路	淡路市津名の郷	33.5MW	27年7月	工事着手済

## (2) 風力・太陽熱・バイオマスを組み合わせたバイナリー発電に関する技術開発の実証【総合特区事業】

ア 事業概要（環境省 地球温暖化対策技術開発・実証研究事業(競争的資金)により実施）

複数の再生可能エネルギーを組合せたバイナリー発電システムを開発する。風力発電の短周期の出力変動分を抑制する開発を行い、不安定な出力を平準化させるとともに、カットした変動電力を熱源に変え、太陽熱とバイオマスの熱エネルギー源と組み合わせて、バイナリー発電システムの熱源として利用することで、自然条件の変化にかかわらず安定した電力供給に加え、温水の供給も可能とする技術開発の実証を実施。

イ 実施場所

南あわじ市阿万西町

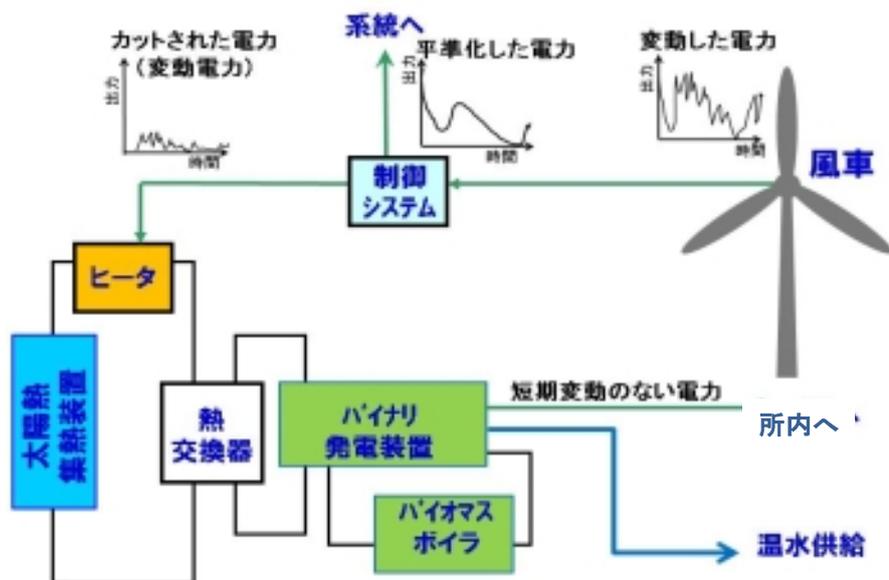
ウ 実施主体

(株)東芝、(株)神戸製鋼所、慶應義塾大学（協力支援：県立工業技術センター）

エ 事業期間

平成24～26年度

オ 今回の技術開発のイメージ



### (3) バイオマス利用の推進【総合特区事業】

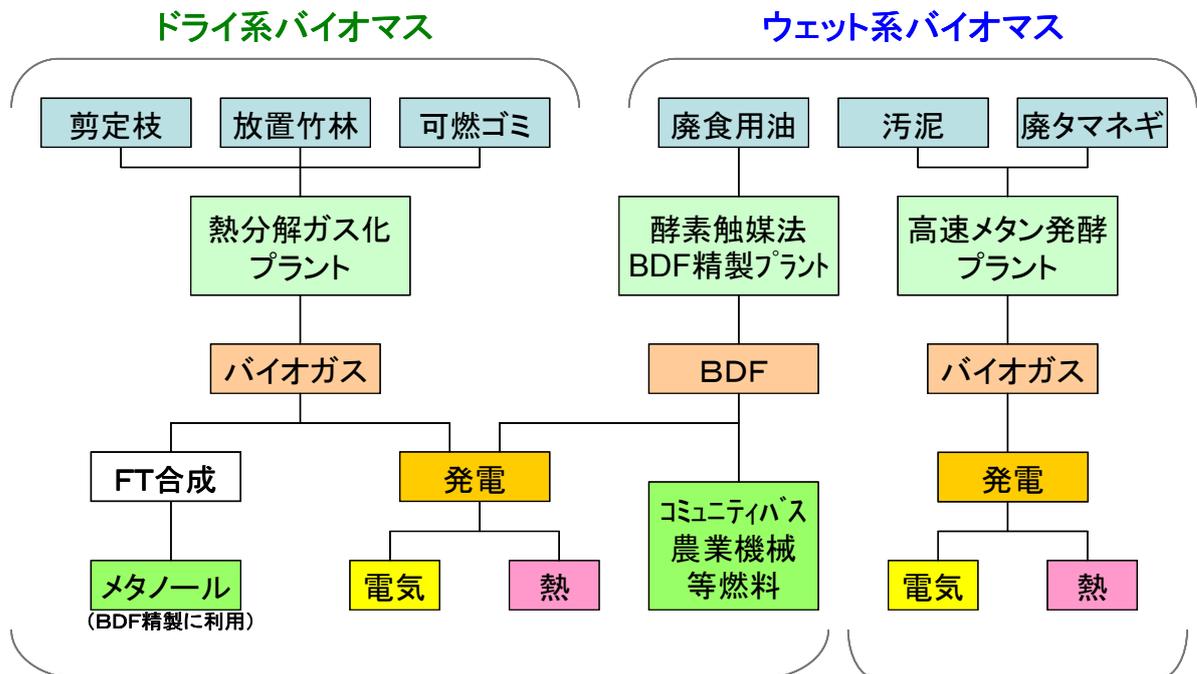
#### ア 事業概要

バイオマスの複合利用として、洲本市において事業主体が市と協働して実証事業等の取組を行っている。

#### イ 実施主体・取組状況

	事業主体	取組状況
廃食用油利用のバイオマス燃料高質化による農機燃料・発電利用	浜田化学(株)	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成23年度は、農水省競争資金を活用し、酵素触媒法BDF製造に関するFS調査を実施。</li> <li>平成24年度に実証プラントを設置。</li> <li>平成25年度は、酵素触媒法BDF製造実証プラントの連続運転試験と、得られる液体燃料の長期使用試験等を実施した。</li> </ul>
下水汚泥等の高速メタン発酵による発電・熱利用	(株)リマテック	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成22～23年度にNEDOの競争的資金を活用し、大阪府立大学の指導を得てFSを実施。</li> <li>今後、実証プラントの設置に向けて、関係者と調整する。</li> </ul>
剪定枝・竹等のドライ系資源の発電・液体化による貯蔵利用	(株)北海道マイクロエナジー	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成24年度に農水省競争資金を活用し、多様なバイオマス資源（竹チップ、刈草、街路樹剪定枝等）を一つの設備で熱分解、ガス化し、発電する技術の実証に向けたFS調査を実施。</li> </ul>
地域資源の価値を高める複合的なバイオマス利用のための計画策定	洲本市	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成25年度に農水省競争資金を活用し、地域資源を活用したバイオマス産業の創出・育成による地域産業の振興ならびに雇用創出、及びバイオマスをはじめとした地域自立分散型エネルギー供給体制の強化による環境にやさしく災害に強いまちづくりの推進を図る「洲本市バイオマス産業都市構想案」策定のための調査検討を実施し、平成26年4月に策定した。</li> <li>「洲本市バイオマス産業都市構想」をもって国に応募し、平成26年11月10日付で洲本市がバイオマス産業都市に選定された。</li> </ul>

#### ウ 取組のイメージ



バイオマスの複合利用のイメージ

#### (4) 洋上風力発電の事業化検討【総合特区事業】

##### ア 事業概要

淡路島西岸の良好な風況を活用した風力発電の事業化の可能性を探るため、諸事業者と調整を行っている。

平成24年度は、神戸大学大学院海事科学研究科の協力を得て、対象海域の風況シミュレーション調査を実施した。

平成26年度は、「風力発電等環境アセスメント基礎情報整備モデル事業」(環境省)の対象地区に採択され、将来的に発電事業者へ地域固有の環境基礎情報を提供するための現地調査等を同省が行っている。



##### イ 実施場所

洲本市五色町沖合

##### ウ 実施主体

洲本市

デンマークの洋上風力発電施設

##### 【参考】淡路島内の風力発電所の設置状況

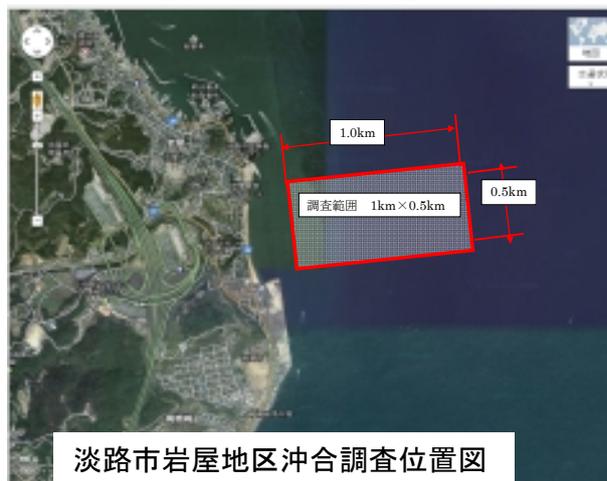
設置者	場所	稼働時期	出力・基数
淡路市	淡路市小倉	平成14年	0.6MW (0.6MW×1基)
(株)クリーンエネルギー五色	洲本市五色町都志	平成14年	1.5MW (1.5MW×1基)
(株)南淡風力エネルギー開発	南あわじ市阿万西町	平成15年	1.5MW (1.5MW×1基)
(株)ホテルニューアワジ	南あわじ市阿万吹上町	平成16年	2MW (2MW×1基)
CEF南あわじウインドファーム(株)	南あわじ市阿那賀	平成18年	37.5MW (2.5MW×15基)
(株)関電エネルギーソリューション	淡路市野島	平成24年	12MW (2MW×6基)

#### (5) 潮流発電の実用化に向けた実証実験の実施【総合特区事業】

##### ア 事業概要

明石海峡の潮流を活用した潮流発電の技術開発と発電事業成立性の検証を目的に、実証実験を行う。

平成24年度には、「新エネルギー等共通基盤整備促進事業」(資源エネルギー庁、総務省)に採択され、淡路市岩屋沖において、大潮時と小潮時の2回、ADCP流速計による広域流況観測を実施し、潮流発電装置設置場所の候補海域の絞り込みを行った。



淡路市岩屋地区沖合調査位置図

また、平成26年7月に「潮流発電技術実用化推進事業(環境省)の採択を受けたことから、今後、平成30年度までの5年間を目途に500kW級の発電装置を用いた実証実験の実施に向けた取組を推進する。

##### イ 実施場所

淡路市岩屋地区沖

ウ 実施主体

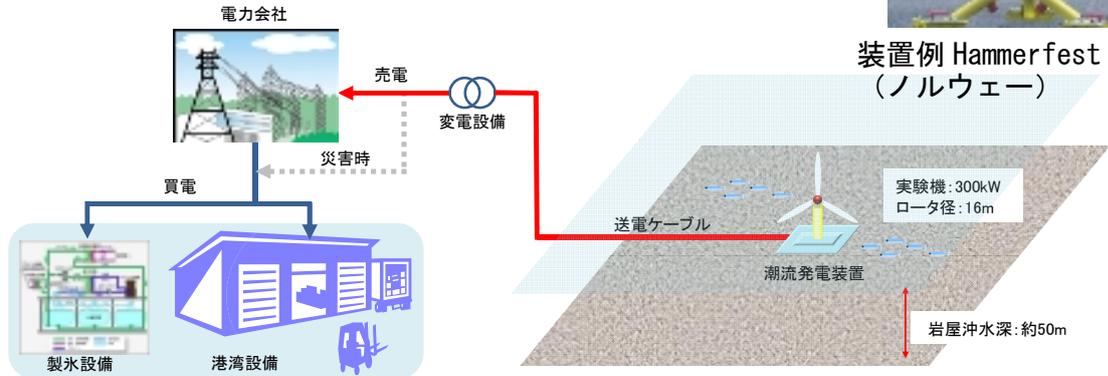
三菱重工業(株)を中心とする共同企業体

エ 事業期間

平成26～30年度 (予定)



装置例 Hammerfest Strom (ノルウェー)



淡路島岩屋地区における潮流発電設備概念図

(6) 住民参加型太陽光発電事業の実施

ア 事業概要

多くの島民の参画を得て再生可能エネルギーの創出に取り組み、住民ぐるみであわじ環境未来島構想を推進する仕組みとして、県が住民参加型市場公募債（あわじ環境未来島債）を発行して島民を中心とした県民から調達した資金及び県有地を一般財団法人淡路島くにうみ協会に対して貸し付け、同協会が行う発電・売電事業により得た収益を淡路地域の活性化に活用する。

平成25年7月31日からあわじ環境未来島債の販売を開始し、販売期間終了の8月26日を待たずに8月21日に淡路島内で完売（販売件数：471件）。

イ 実施場所

淡路市岩屋字西田（県立淡路島公園隣接地約1.4ha）

ウ 実施主体

（一財）淡路島くにうみ協会

エ 事業内容

(7) 発電出力

0.95MW

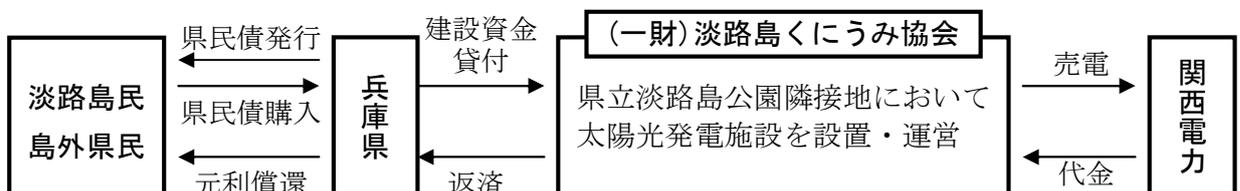
(イ) スケジュール

- ・ 発電施設建設 平成25年8月～26年3月
- ・ 売電開始 平成26年3月

(ウ) スキーム図



住民参加型太陽光発電所



## オ あわじ環境未来島債の概要

- (ア) 発行額  
4億円
- (イ) 発行年限  
5年（平成30年8月30日（木）償還）
- (ウ) 表面利率  
0.33%
- (エ) 販売単位  
一口5万円以上5万円単位
- (オ) 購入限度額  
200万円
- (カ) その他  
住民参加型太陽光発電事業の（収支）実績報告書の送付（年1回）

## (7) スマートコミュニティづくりの推進

### ア 南あわじ市沼島

#### (ア) これまでの取組

離島・漁村において災害等に対応する自立分散エネルギーシステムの確立を目指し、複数の技術開発を組み合わせ、エネルギー自立島の構築に向けた実証を行う（地球温暖化対策技術開発・実証研究事業（環境省：委託）に採択）。



沼島の全景

#### (イ) 研究テーマ

離島・漁村における直流技術による自立分散エネルギーシステム技術の実証研究

#### (ウ) 実施主体・研究内容（H24～26）

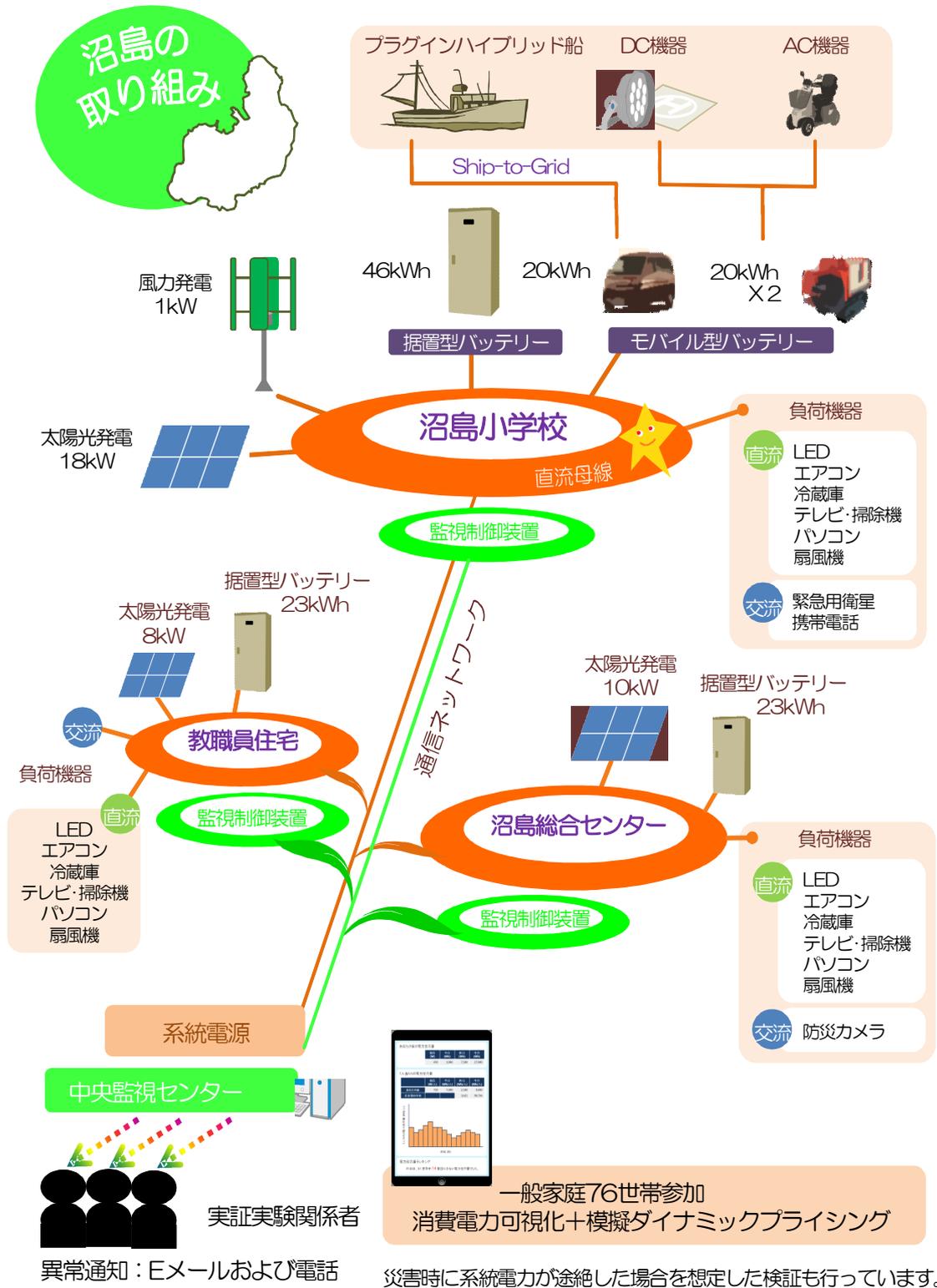
	概要	実施主体
直流給電の技術開発	直交変換ロス（通常10%程度）を最小化するための直流給電技術を開発する。	神戸大学、富士電機(株)、三社電機(株)、県立工業技術センター
高効率な充電技術の開発	蓄電池の高効率充放電方式の開発に加え、多目的に使用可能な可搬式蓄電池を開発し、ハイブリッド漁船に搭載することで災害時等の電源としての活用を実証する。	立命館大学、大阪市立大学、三洋電機(株)、中西金属工業(株)、県立工業技術センター
ダイナミックプライシングの手法開発	再生可能エネルギーによる発電量に応じて時間帯別に電気料金を変動させる電力需要管理手法の社会実験を実施する（バーチャルで実施）。	立命館大学、慧通信技術工業(株)、県立工業技術センター
全体システム最適化	以上を組み合わせ、地震・津波等災害発生時に対応する自立・分散エネルギーシステムの最適化を実施する。	神戸大学、立命館大学、県立工業技術センター

※代表者：玉置 久 神戸大学大学院システム情報学研究所教授

※協力者：沼島地区住民、南あわじ市、関西電力(株)、(株)カネカ

(I) 事業イメージ

エネルギー自立島 沼島の実現を目指して





## (8) 太陽光発電施設導入支援

### ア 事業概要

地域のエネルギー自給率向上に向けて、地域の強みである豊富な日照量を生かした太陽光発電の導入を加速化するため、住宅用太陽光発電システム整備を補助する。

### イ 実施主体

洲本市、南あわじ市、淡路市

### ウ 補助額等

	平成27年度補助内容		平成26年度実績
	補助単価	上 限 額	
洲本市	2万円/kW	8万円/件（パナソニック製の太陽光発電システムを設置した場合：3万円/kW、上限12万円/件）	61件 303.27kW
南あわじ市	2万円/kW	8万円/件	48件 273.33kW
淡路市	2万円/kW	8万円/件（市内業者が工事した場合：2.5万円/kW、上限10万円/kW）	57件 287.25kW

## (9) あわじ竹資源エネルギー化5か年計画の実施

### ア 事業概要

島内に豊富にある竹資源をバイオマスエネルギーとして活用し、放置竹林の拡大を防止するため、平成27年度から5年間で竹チップを年間500トン生産、消費する「あわじ竹資源エネルギー化5か年計画」を実施する。

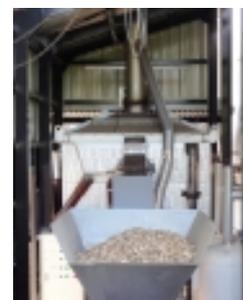
### イ 実施主体

県、島内3市

### ウ 取組内容

#### (7) 竹資源活用エネルギー設備導入モニタリング事業

竹資源活用エネルギー設備のうち花卉のハウス栽培等農業利用の竹チップボイラーは、これまで長期間の利用実績がなく、農業者が購入する際の参照データが不足しているため、モニター用竹チップボイラーの開発を委託し、農業者にモニター利用を促すことで、消費拡大への契機とする。



竹チップボイラー  
(ゆうゆうライフケアプランセンター)

#### (イ) 竹資源活用エネルギー設備導入事業

竹資源活用エネルギー設備のうち家庭用竹チップボイラーや竹チップストーブの導入に対して補助することにより、竹の燃料としての消費拡大を図り、竹の資源としての活用を促進する。また、導入先のモニタリングを行い、使用状況について調査を行う。

各設備1台あたり上限10万円（補助率：対象経費の1/3）

#### (ウ) 竹資源活用エネルギー設備導入説明会及び現地見学会の開催

竹の資源活用を促進するため、島内の放置竹林の現状や竹を資源として活用する取組及び補助制度を現地見学会を交えて紹介し、島民への普及啓発を図る。

## (10) 「EVアイランドあわじ」推進事業

### ア 事業概要

電気自動車（EV）の普及を推進するため、島内の事業者を対象にEV購入補助を行うほか、電気自動車に関連するイベントを開催することにより、全県に先駆けたEV導入モデル地域として推進する。

### イ 実施主体

県、（一財）淡路島くにうみ協会

### ウ 取組内容

#### (ア) EVの導入補助事業

（一財）淡路島くにうみ協会が島内の事業者を対象に電気自動車導入補助を行う。

平成26年度に開始した島内のタクシー、レンタカー、教習所事業者を対象とするラッピング施工電気自動車の導入補助について、平成27年度は島内の宅配事業者を対象業種として追加する。

（平成27年度事業概要）

EVタクシー・レンタカー等導入補助	
対象車両	電気自動車（プラグイン・ハイブリッド自動車を含む。）
補助金額	1台当たり50万円 ラッピング施工費20万円
補助予定台数	20台
補助要件	普及啓発ラッピング施工
参考(26年度)	3台

※ 30万円を上限とする一般向け導入補助の実施 208台（平成23～26年度）

#### (イ) 次世代自動車充電インフラ整備事業

県が策定する充電器設置のためのビジョンに基づき、県自らが県立施設等に急速充電器を設置（設置基数：淡路島内分5基）

※ 全県事業として、別途、県総合庁舎、県立病院等17施設（洲本総合庁舎及び淡路医療センターを含む）にも整備（淡路島内の設置台数 68台）



充電器の例

#### (ロ) EVアイランドあわじフェスタ

協議会が主体となり平成26年度に開催した、EVを災害時や日常生活の電源として利用するなどEVの幅広い活用方法をPRする普及啓発イベントを、平成27年度はEVオーナーズクラブ及び日本EVクラブ等といったEVユーザー有志による全国規模の普及団体と連携を図り、島内に止まらないEV普及啓発イベントとして拡充する。



EV蓄電池の電源活用展示



EV試乗会

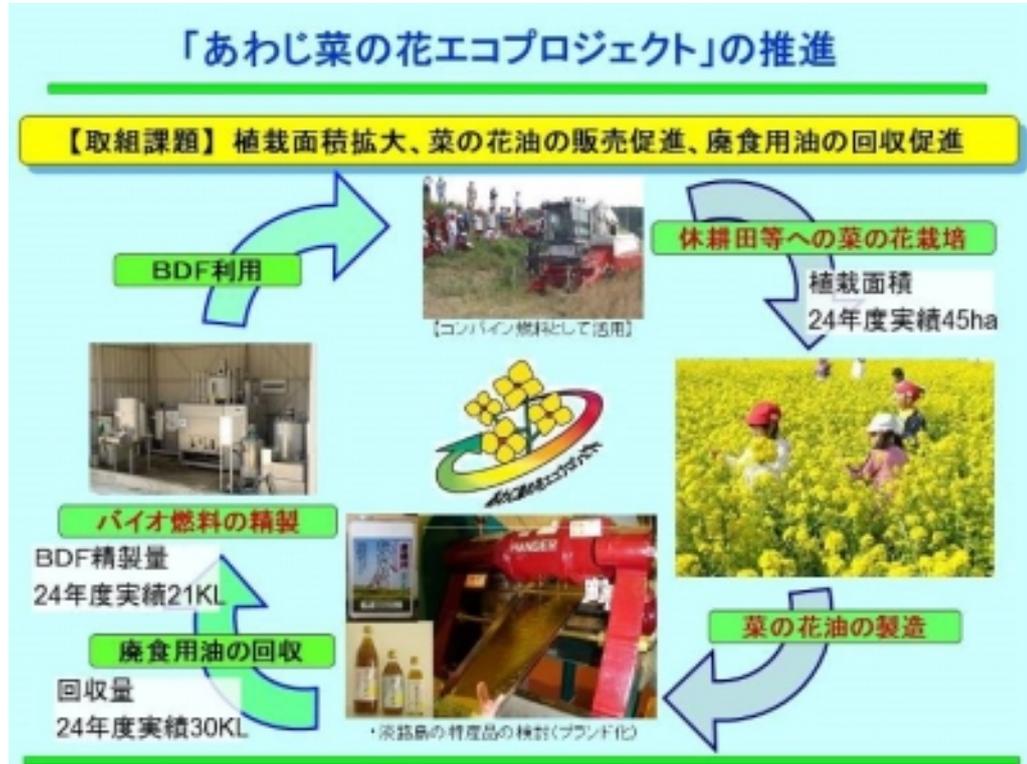
## (11) あわじ菜の花エコプロジェクトの推進

### ア 事業概要

油糧作物の栽培収穫、搾油、食用油販売と、回収した廃食用油のBDF化という資源循環の取組を通じて、環境保全、農地保全、景観形成、特産品開発、エネルギー自給等による地域づくりを図る。

### イ 実施主体

「環境立島淡路」島民会議、県、島内3市 他



## 2 農と食の持続

### (1) 「チャレンジファーム淡路」事業の展開【総合特区事業】

#### ア 事業概要

農業分野での起業を目指す人材を(株)パソナ農援隊が最長3年間契約社員として雇用し、淡路市野島地区の遊休農地をフィールドとして、事業計画の作成、栽培品目の選定、生産・販売方法の企画、栽培管理・収穫・出荷など、農業経営の実践を通じて育成する「パソナチャレンジファーム」事業を展開している。

なお、当該事業の実施に当たっては、県・淡路市が協働して農地の斡旋及び農業技術の指導等を行っている。

#### イ これまでの成果

平成20年から事業を開始しており、現在、1名の研修生が独立就農又は農業分野での起業に向けて研修を行っている(展開面積:約8.5ha(H27.4現在))。

卒業生で独立就農を希望する17名のうち、8名が淡路島内で就農し、うち4名が認定就農者となっている。

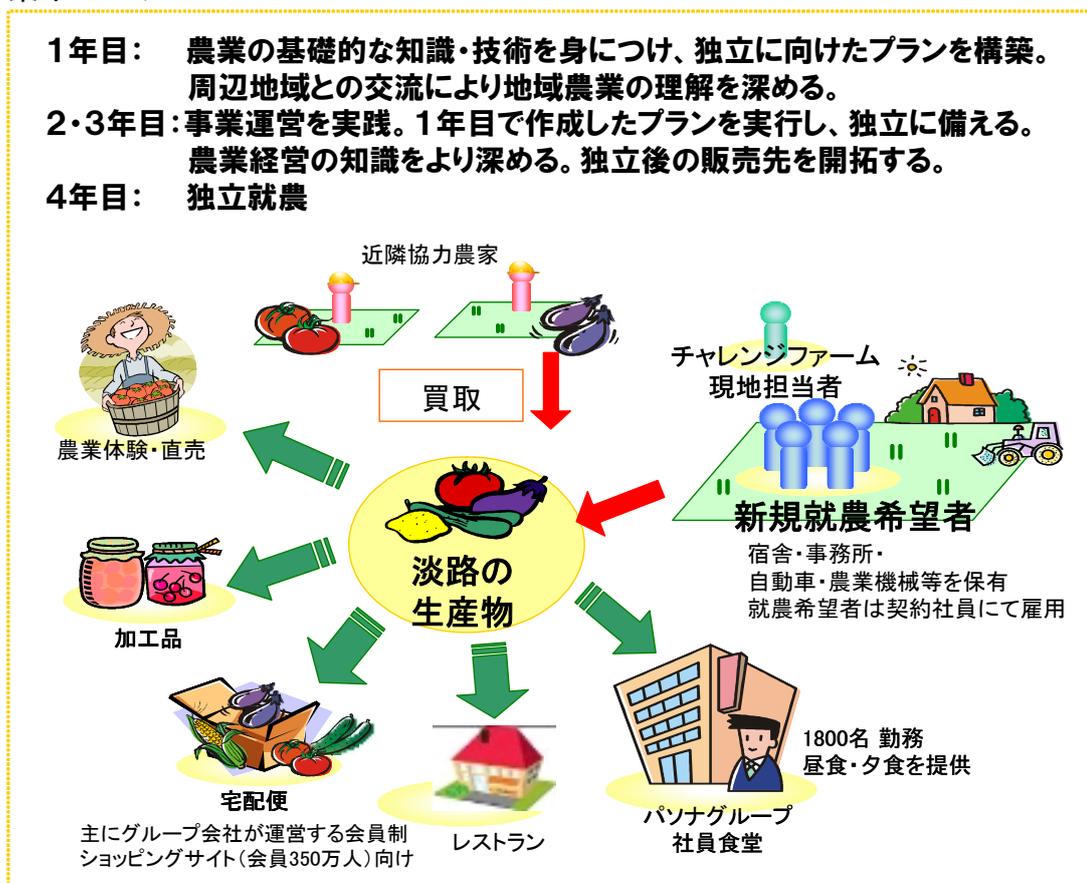


「チャレンジファーム」の耕作地

## ウ 実施主体

(株)パソナ農援隊

## エ 事業イメージ



## (2) 新卒未就職者等の人材育成の取組（「ここから村」事業）

### ア 事業概要

若年層の厳しい雇用情勢を踏まえ、新卒未就職者等を雇い入れ、地域の強みである農業を2次産業、3次産業に展開できる6次産業人材の育成や観光・交流人材の育成に向けた実習研修を行い、魅力ある定住人材を創出する。

### イ 実施主体

県（(株)パソナグループ、(株)パソナふるさとインキュベーションに委託）

### ウ 実施状況

平成23年度は、「淡路島農業人材育成事業」として(株)パソナグループに委託し、同社が167人を雇用し、農作業をしながら芸術活動を行う「半農半芸」の兼業スタイルの普及により若手農業人材の地域定着につなげる「ここから村」の取組を展開した。

なお、平成24年度は、「淡路島6次産業人材育成事業」として81人、平成25年度は、「淡路島観光・交流人材育成事業」として30人を雇用した。

### (3) 旧野島小学校施設用地利活用事業（のじまスコーラの設置・運営）【総合特区事業】

#### ア 事業概要

廃校した小学校を利活用し、地域活性化のシンボルとしてあらたな観光、6次産業化のモデル施設として位置づけ、耕作放棄地の有効活用、雇用創造、生産から加工、販売流通という6次産業モデルを確立する。

#### イ 実施主体

(株)パソナふるさとインキュベーション

#### ウ 場所

旧淡路市立野島小学校（平成22年3月末廃校）

※ 淡路市から公募により施設を無償譲渡



のじまスコーラ

#### エ 取組内容

農業を中心とした加工品の開発や流通、販売、観光、研修等の機能を有する地域交流の場となることを目指して、「のじまスコーラ」を平成24年8月4日にオープンした。

	内 容
1階	加工場、カフェ、ベーカリーショップ、直売所
2階	イタリアンレストラン、交流スペース
3階	音楽小ホール、ワークショップスペース ※将来的に植物工場の設置を検討

### (4) エコ・クラインガルテン構想の推進【総合特区事業】

#### ア 事業概要

都市住民が農業体験を通じて心の健康を回復する滞在型市民農園（クラインガルテン）について、再生可能エネルギーの活用も視野に入れた「エコ・クラインガルテン」事業の実施に向けた検討を進めている。

#### イ 実施主体

(株)パソナグループ

#### ウ 事業実施場所

(調整中)

### (5) 吉備国際大学南あわじ志知キャンパス地域創成農学部との連携

#### ア 事業概要

農業生産、加工、流通に関する専門的な知識と技術を身につけ、地域社会における農業の状況や位置づけを的確に捉え、広い視点から地域の社会的諸課題を総合的に捉えることのできる人材の養成を通じて地域の再生に寄与するため、平成25年4月に開校した吉備国際大学南あわじ志知キャンパス地域創成農学部との連携を推進する。



吉備国際大学南あわじ志知キャンパス

#### イ 実施場所

南あわじ市志知（吉備国際大学南あわじ志知キャンパス（旧県立志知高校施設））

#### ウ 実施主体

学校法人順正学園

## エ 定員等

- ・ 4 学年計260名規模（1 学年60名、3 年次編入学10名）
- ・ 教授 6 名、その他教員 6 名、事務員 4 名、計16名程度
- ・ 平成25年度入学56名、平成26年度入学50名、平成27年度入学49名

## オ 取組状況

- ・ 学校法人順正学園並びに南あわじ市及び兵庫県は、相互に連携を強化し、人材育成、地域課題の解決及び地域活性化を図るため、包括的な連携協力協定を平成25年5月に締結した。
- ・ 自治体と連携して全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める大学を支援する「地（知）の拠点整備事業」（文部科学省）に吉備国際大学が採択されたことを受け、大学が主体となって地域ニーズに基づく共同研究、シンポジウム等の開催による地域交流活動の展開などに取り組んでいる。
- ・ 南あわじ市においては、大学の誘致・開校を契機として、大学連携推進協議会を設置し、大学と地域との連携を図るとともに、地域のシーズとニーズをつなぐ場となる「南あわじ市地域創成コンソーシアム」の設立に向けて取り組んでいる。

## (6) 南あわじ市あわじ島まるごと食の拠点施設の整備促進

### ア 事業概要

「食を核とした都市と農村の交流拠点」をコンセプトとして、淡路島の豊かな食材をまるごと楽しく味わう、買う、体験する「南あわじ市あわじ島まるごと食の拠点施設」を整備。



直売所・レストラン（みなこいこいや美菜恋来屋）

### イ 実施場所

南あわじ市八木養宜上（淡路ファームパーク「イングランドの丘」に隣接）

### ウ 実施主体

あわじ島まるごと(株) ※南あわじ市、あわじ島農業協同組合その他の団体が出資

### エ 整備概要

直売所・レストランを先行オープン（平成27年3月）し、加工施設、体験施設を順次整備する。

## (7) 漁船の電動化による漁業のグリーン化【総合特区事業】

### ア 事業概要

全国初の取組となる電動船内外機船（ドライブ船）の開発を行い、航行実証実験を行うことにより、漁業活動から排出される二酸化炭素の大幅な削減を図り、環境にやさしい漁業の確立を目指す。

### イ 実施場所

洲本市五色町



完全電動ドライブ漁船

## ウ 実施主体

(社)海洋水産システム協会、アイティオー(株) ※五色町漁協が協力

## エ 取組状況

平成24年度に水産庁の競争的資金に採択され、五色町漁協に完全電動ドライブ漁船を導入し、航行実証実験を実施した。

同漁船については、上記実験終了後も五色町漁協が日常業務において活用している。

## オ その他

南あわじ市沼島においても、大阪市立大学、古野電気(株)、県立工業技術センター等により、モーターとエンジンを組み合わせた定点航行システムを組み入れた「ハイブリッド漁船」の開発を行った。

## (8) 食のブランド「淡路島」推進事業

### ア 事業概要

「食」と「観光」の連携による食のイベント等の開催により、食料供給拠点としての淡路島のブランド力の一層の強化と新たな食文化の創造による淡路島全体の活性化を図る。

### イ 実施主体

食のブランド「淡路島」推進協議会、県、洲本市、南あわじ市、淡路市

### ウ 主な取組

#### (7) 食のブランド「淡路島」オータムメッセ2014

淡路島内外から広く集客を行い、淡路島の食の見本市を開催した。

開催時期	11月29日(土)、30日(日)
会場	淡路ワールドパークONOKORO(淡路市)
来場者数	5,711人

#### (イ) 「秋のおいしい御食国月間」と食のリレーイベントの実施

平成26年度は9月～11月の3ヶ月間を「秋のおいしい御食国月間」とし、32イベントをリレーイベントとして位置づけ、「21世紀の御食国」として情報発信した。

#### (ウ) 島外への販売拡大活動とイメージ戦略の推進

首都圏等における「淡路島産」の知名度アップ、商品PRによるブランド力の向上を目的として、食のブランド「淡路島」フェアin神戸(9月:神戸ハーバーランドumieモザイク高浜岸壁(神戸市)10社)、収穫感謝と食の集い(11月27日:明治神宮参集殿(東京都))、スーパーマーケット・トレードショー2014(平成26年2月:東京ビッグサイト(東京都))、食のブランド「淡路島」商談会(平成26年3月:淡路夢舞台(淡路市))を実施した。



食のブランドのPR活動

#### (イ) 「淡路島産食材こだわり宣言店」制度(淡路島版緑提灯)の推進

淡路島を訪れる観光客等や淡路島在住の方に淡路島産の食材を使用した料理を食べられる店をお知らせし、淡路島産食材の利用拡大を図ることにより、淡路島の農林水産業の振興を図ることを目的に、「淡路島産食材こだわり宣言店」制度を創設した。

「淡路島産食材こだわり宣言店とは」

淡路島の食材にこだわりを持って積極的に利用することを、淡路島に所在する飲食店の店主等が店舗に表示資材を表示することで自ら宣言する店

- ・島内産食材を5割以上使用・・・2つ星
- ・島内産食材を8割以上使用・・・3つ星



## (9) 食料供給基地としての生産振興対策の推進

### ア 事業概要

たまねぎ等の淡路島野菜の生産力強化や淡路和牛や生乳の安定生産、資源培養型水産業の推進を図るとともに、生産を支える基盤整備を行う。

### イ 実施主体

県（淡路県民局）、地域団体

### ウ 主な取組

#### (7) がんばる淡路島農業人支援事業

高齢化する農家への援農活動等を通じ、将来の淡路島農業を担う若者の農業技術習得や独立就農を支援する農協等の取組を推進し、耕畜連携を踏まえた二毛作・三毛作体系の野菜生産の元気アップを図り、21世紀の御食国づくり（目標：農業産出額400億円）を目指す。

#### (イ) 淡路島の野菜産地向上プロジェクトなど野菜生産振興

たまねぎの機械化一貫体系による軽労化や良食味晩生品種作付拡大、レタスの土壌病害対策を推進する。

#### (ウ) 淡路島いちじく作付面積倍増（25ha）作戦の展開

都市近郊・温暖な気候を生かした生産拡大、高品質生産への技術向上に取り組む。

#### (エ) 淡路和牛、酪農等の生産振興

飼養環境の改善（暑熱対策、牛床マット等）による生産性の向上、自給飼料（WC S、稲わら等）の地域複合による増産体制の推進、規模拡大への個別相談・指導を行う。

#### (オ) 水産の島の再生

漁場環境の改善、水産資源の回復、養殖漁業の推進（ワカメ等）、水産物の高付加価値化・販売促進活動の推進に取り組む。

#### (カ) 花きの生産拡大

ストック等淡路島の花の高品質生産技術・低コスト多収生産技術の実証に取り組む。



淡路島の豊かな農畜水産物

#### (4) 生産基盤の整備促進

計画的なほ場整備・ため池改修、ため池・里海交流保全活動（かいぼり）の推進（平成29年度末までに50箇所交流保全活動を育成）に取り組む。

#### (5) 6次産業化による淡路島産加工品開発

島内農業者を対象に、いちじくジャム、たまねぎ加工品等の新商品開発を支援する。

### 3 暮らしの持続

#### (1) 高齢者にやさしい持続交通システムの構築【総合特区事業】

##### ア 事業概要

中山間地域で公共交通手段が少なく、高齢者の比率が高い淡路地域をフィールドとし、高齢者が安全、快適に移動することができる社会システムづくりを行う。

##### イ これまでの取組（低炭素型地域交通システム導入実証事業）

平成24年度に日産自動車の協力を得て、車両規格が定められていない二人乗り超小型電動車両について、地域住民の参画を得て、低炭素型の新しい地域交通システムのモデル構築に取り組む実証事業を実施した。



生田・長沢地区での実証走行の様相

##### (7) 実施主体

県、（一財）淡路島くにもみ協会

##### (イ) 内容

###### ・ 日程

平成24年7月23日（月）～8月5日（日）

###### ・ 実施場所

洲本市五色町鮎原神陽地区、淡路市長沢・生田・五斗長地区

###### ・ 実証車両

日産ニューモビリティコンセプト4台

##### ウ 実施主体

神戸大学、県立工業技術センターほか

#### (2) 洲本市中心市街地における複合型福祉拠点の整備

##### ア 事業概要

洲本市中心市街地に位置する旧県立淡路病院の跡地を活用し、特別養護老人ホーム、知的障害者向けの通所事業所やグループホームなどを備えた、高齢者や障害者が安心して暮らせる複合型福祉拠点として整備する。

##### イ 事業主体

県社会福祉事業団等

##### ウ 取組状況

平成27年度中の整備開始に向け、関係事業者等との調整を進めている。

## エ 整備イメージ



### (3) ソーシャルファームの推進

#### ア 事業概要

南あわじ市活性化委員会の活動の一環として、障がい者等の新たな雇用・就業の場となるソーシャルファームのモデル整備を行う。

#### イ 実施場所

南あわじ市

#### ウ 実施主体

特定非営利活動法人ソーシャルデザインセンター淡路（平成23年11月設立）

#### エ 取組状況

ソーシャルファームのモデル整備として、研修農場の調査及び整備、学習・研修等の農業指導、人材発掘・育成、商品開発など検討。

#### オ 参考

##### ソーシャルファームとは

障害者や高齢者など社会的に不利な立場にある人々のために、そうした人々と支援者が共同で事業を興し、雇用を創出する企業形態。1970年代にイタリアで始まり、80年代にはドイツ、イギリス、ギリシャ、フィンランド等ヨーロッパ各地に広がる。

現在、ヨーロッパ全体で1万社を超えるソーシャルファームがあるとされ、ビジネス手法をもって社会的な目的を達成する企業（ソーシャルエンタープライズ）の一種である。

事業内容は様々だが、「将来的には助成金に頼らず運営ができること」「生み出された利益を社会に還元すること」、「地域住民のための事業が中心であること」などが特色として挙げられる。

### (4) 実践型地域雇用創造事業（淡路はたらくカタチ研究島）の実施

#### ア 事業概要

雇用情勢の厳しい淡路地域の活性化を図り、新たな雇用を創出するため、地域の自治体、経済団体等で構成する地域雇用創造協議会が提案した雇用対策に係る事業構想

に対して国が委託する「地域雇用創造推進事業」（厚生労働省）を活用して各種セミナー等を実施（平成23～25年度）する。

また、同事業の成果を踏まえ、交流人口の拡大、地域のものづくり事業の展開に必要な人材を育成するため、「実践型地域雇用創造事業」を同省から受託実施する。

**イ 実施主体**

淡路地域雇用創造推進協議会（淡路地域の商工会議所・商工会、労働関係団体、地元3市及び県で構成）



**ウ 取組内容**

**(1) 地域雇用創造推進事業（平成23～25年度）**

求職者向けの「人材育成メニュー」（11研究会）、事業者向けの「雇用拡大メニュー」（6研究会）及び求職者と事業者のマッチングを行う「就職促進メニュー」を実施している。

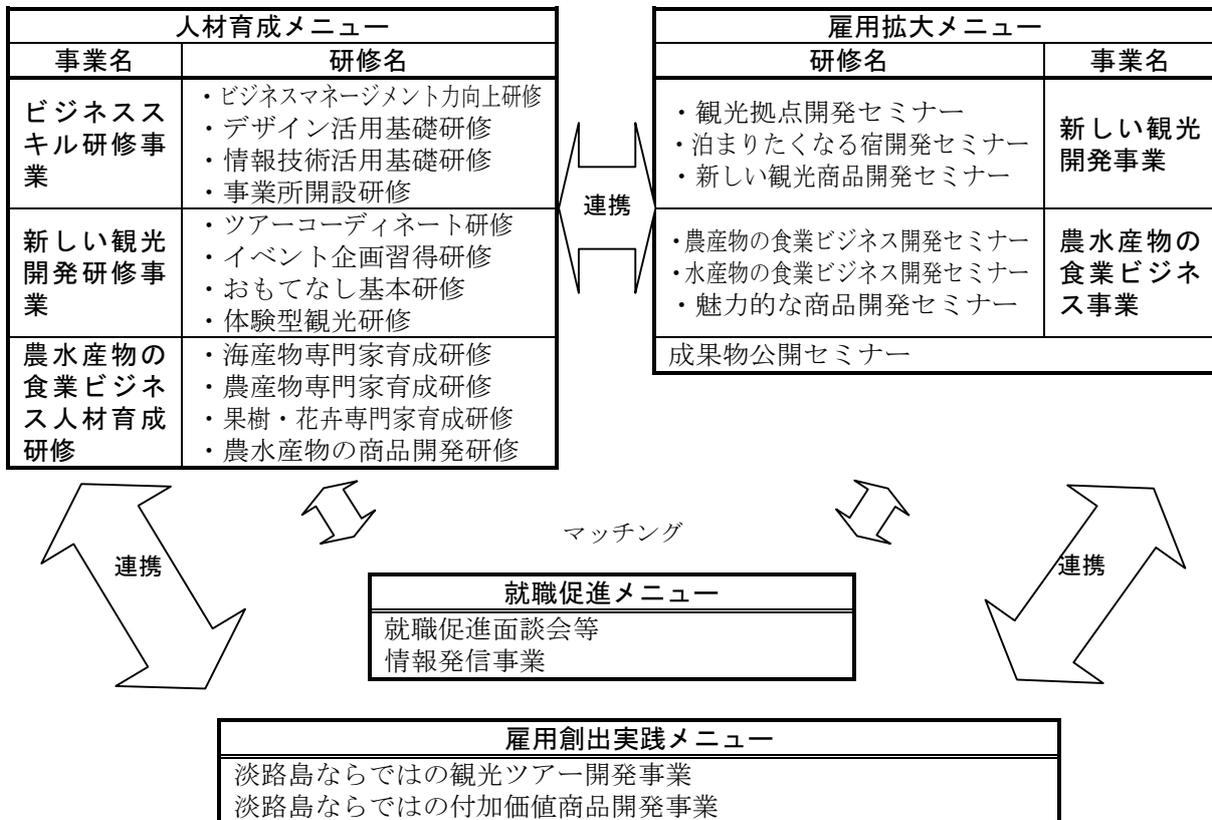


食のブランドのPR活動

**(2) 実践型地域雇用創造事業（平成25～27年度）**

地域雇用創造推進事業と同様に求職者向けの「人材育成メニュー」（12研究会）、事業者向けの「雇用拡大メニュー」（6研究会）及び求職者と事業者のマッチングを行う「就職促進メニュー」を実施するほか、育成した人材を活用して商品開発や販路開拓を実施する「雇用創出実践メニュー」を新たに実施する。

**(事業構成図)**



## (5) 健康長寿の島づくり

### ア 事業概要

安心して生活でき、共に支え合う住民主体の健康長寿の島づくりを推進する。

### イ 実施主体

県、市、県立淡路医療センター、かかりつけ医、介護保険事業者他

### ウ 主な取組

#### (ア) 地域で支える健康づくり

- ・ いきいき百歳体操の全島推進（活動拠点 島内198カ所）
- ・ 認知症地域支援ネットワークづくり

#### (イ) 精神障害者が地域で当たり前で暮らせるまちづくり

- ・ 精神障害者のセルフケア能力と当事者グループの育成
- ・ 精神障害者へのアウトリーチ支援の体制づくり
- ・ 精神障害への理解を促進する研修会の開催



いきいき百歳体操

## (6) 淡路マンガ・アニメアイランド事業

### ア 事業概要

世界的に人気の高い日本のマンガ、アニメ、キャラクターやゲームなど、ポップカルチャーと呼ばれるコンテンツを集めた大型複合体験型の漫画アニメ美術館等を整備し、国内外からの観光客を誘致する。

### イ 実施主体

(株)パソナグループ

### ウ 整備場所

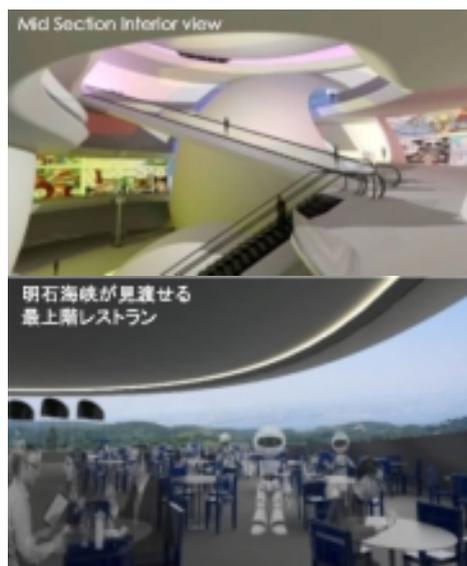
県立淡路島公園内

### エ 主な施設内容

ミュージアム、オーデイトリアム、ショップ、ライブラリなど



整備イメージ



内部イメージ

### オ 開設時期

平成29年（目標）

## (7) 淡路 I C Tスマートアイランドプロジェクト

### ア 事業概要

I C T（情報通信技術）を活用した各種サービスの提供を通じて住民の生活を便利で豊かなものにしていくため、平成25年度に「I C T街づくり推進事業」（総務省）を活用して、実証実験を展開した。

今後は、実証実験の成果を生かして、防災、交通、医療、エネルギーなどの課題を解決するための取組を展開する。

### イ 実施主体

淡路市、(株)パソナふるさとインキュベーション、(株)パソナテック、(株)パソナロジコム

### ウ 平成25年度の実証実験

- ・ インターネット上での商品の予約・宅配サービス
- ・ 災害情報の提供
- ・ I C T技術を活用したオンデマンドバスの導入
- ・ I C T活用促進のための講座の開催

## 4 総合的取組

### (1) あわじ環境未来島構想推進協議会の運営

#### ア 事業概要

住民、地域団体、N P O、企業、行政等が幅広く参画する協議会を設置し、多様な主体の協働で構想を推進する（平成23年10月21日設立）。

#### イ 実施主体

あわじ環境未来島構想推進協議会（会長：瀧川好美（一財）淡路島くふうみ協合理事長）

#### ウ 構成団体

106団体

#### エ これまでの取組

平成22年度に淡路島特区構想推進委員会を立ち上げ、平成23年度に同委員会を発展的に改組してあわじ環境未来島構想推進協議会を設立した。

平成26年度は、5月28日に総会を開催し、取組状況の報告のほか、総合特区自己評価について審議を行った。



設立総会 (H23. 10. 21)

### (2) あわじ環境未来島構想の啓発推進

#### ア 事業概要

構想の意義や取組について次代を担う小学生をはじめ広く周知啓発を行うことにより、島民自らが持続可能な地域づくりへ取り組む気運を醸成する。

#### イ 実施主体

県、(一財)淡路島くふうみ協会

## ウ 取組内容

### (7) あわじ環境未来島セミナー

あわじ環境未来島構想に掲げる諸事業について、淡路島民の理解を促すため、島内の親子などを対象に取組が進むプロジェクトの現場での学習を盛り込んだセミナーを開催する。



(平成26年度開催実績)

		主な学習施設
第1回	8月24日(日)	くにうみ太陽光発電所、パソナ「チャレンジファーム」、のじまスコーラ、五斗長垣内遺跡など
第2回	11月16日(日)	吉備国際大学、あわじ島農協榎列予冷センター、淡路島酪農牛乳工場、淡路島牧場、あわじ島農協野菜育苗センター
第3回	2月22日(日)	長澤自然薯食堂、そばカフェ生田村、淡路貴船太陽光発電所、竹チップ製造工場

### (4) あわじ環境未来島副読本活用事業

「あわじ環境未来島副読本-みらい-」を島内の小学生(5年生)に配布し、総合学習等の授業での活用や、淡路青少年の主張大会の課題図書・参考図書にするとともに、構想の取組が進む現場を親子で訪れる体験学習ツアーを実施することにより、構想への理解を深め、次代を担う子ども達が自分達の住む淡路島の将来を考える機会をつくる。

### (5) あわじ環境未来島情報発信事業

「あわじ環境未来島構想」構想関連プロジェクトの進捗状況等を発信するホームページを運営する。

### (6) 啓発作品コンクールの実施

淡路地域の小中学生を対象に副読本を課題図書・参考図書とした作文を募集し、構想に対する関心を高め、島の将来を担う子ども達の意識を醸成する。

### (7) あわじ環境未来島構想啓発パンフレット等の作成

パンフレットやノベルティグッズ等のイベントなどでの配付を通じて構想の啓発を行う。

## (3) あわじ環境未来島構想推進事業

### ア 重点地区推進事業

#### (7) 事業概要

あわじ環境未来島構想に掲げる重点地区において、住民グループ、NPO、企業等が市と協働し、あわじ環境未来島構想に沿って実施する先導的・モデル的な取組を支援する。

(イ) 実施主体

県、島内3市

(ロ) 補助内容

あわじ環境未来島構想の推進に資する住民、NPO、企業等の共同体による取組に対して、県が1市当たり上限4,000千円を補助する（市が県補助金の1/2以上を負担することが条件）。

(ハ) 取組内容

	地区名	26年度の実施内容
洲本市	五色地区《エネルギーと暮らしの自立》	<ul style="list-style-type: none"> <li>域学連携活動に参加する活動関係者の活動滞在拠点を整備</li> <li>再生可能エネルギー活用推進ワークショップや、地域の食と農の情報発信イベントの実施</li> </ul>
南あわじ市	沼島地区《エネルギーとなりわいの自立》	<ul style="list-style-type: none"> <li>沼島総合観光案内所内の観光客受け入れスペースの拡充及び観光ガイド事務所を設置</li> <li>沼島の魚や個性ある漁師たちなどを紹介するパンフレットの作成やグッズ試作品の製作及び土産品開発</li> <li>周遊漁船運航のための不定期航路事業の届出支援と、安全管理の周知のため、「よしじん」の開催、専門家を招いた勉強会の開催</li> </ul> 
	志知地区《農と福祉の人材育成拠点》	<ul style="list-style-type: none"> <li>「地域創成コンソーシアム」の運営体制の検討</li> <li>産官学の連携によるプロジェクト研究・事業の実施</li> <li>食と農の産業文化創造都市という目標の地域共有</li> </ul>
淡路市	長沢・生田・五斗長地区《地域資源を生かした集落活性化》	<p>(長沢地区)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の拠点施設「自然薯食堂」の周辺整備として、駐車場の整備や専用看板の設置</li> <li>特産品である自然薯の栽培に必要な備品を整備し、自然薯の生産量を拡大</li> </ul> <p>(生田地区)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>地域の特産品をPRするイベント「そば花まつり」を開催</li> <li>水車公園付近を流れる川沿いに「ホタルの小路」と休憩施設を整備</li> </ul> <p>(五斗長地区)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>都市部での試験販売及び、PR用卓上ミニのぼりの作成</li> <li>地域の特産品（玉葱）をPRするイベントの開催</li> <li>野菜保冷庫や案内看板の設置によるカフェ「まるごキッチン」の整備</li> </ul> <p>(3地区連携（長沢・生田・五斗長地区）)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>3地区合同によるフォトコンテストの開催</li> <li>フォトコンテストの写真を利用したポストカードの作成</li> </ul> 
	野島地区《農と食の人材育成拠点》	<ul style="list-style-type: none"> <li>耕作放棄地を活用した果樹、野菜の栽培</li> <li>収穫体験や体験農園の整備による観光客の誘致</li> <li>子どもを中心とした交流イベントとして、工作教室を実施</li> </ul>

## イ 重点分野推進事業

### (7) 事業概要

重点地区推進事業に加え、重点地区に限定しない、各市内全域を対象とした重点分野（エネルギー・農と食・くらしの持続）推進事業を新設し、住民、NPO、企業等が市と協同して行う先導的、モデル的な取組を支援し、全島に拡大させる。

### (4) 実施主体

県、島内3市

### (5) 補助内容

あわじ環境未来島構想の推進に資する住民、NPO、企業等の共同体による取組に対して、県が1市当たり上限2,000千円を補助する（市が県補助金額の1/2以上を負担することが条件）。

### (エ) 取組内容

	26年度の取組内容
洲本市	○グリーン&グリーンツーリズムの推進 ・ 域学連携活動の連携大学や地域おこし協力隊員を中心に、地域住民を交えたフィールドワーク、モニターツアー等を開催 ○洲本へいらっしやいプロジェクト ・ 観光視点ではなく、住民目線で見せる洲本市の魅力を体験するメニューの企画作成 ・ 田舎暮らしを希望する者や移住、定住を希望する者、体験メニュー参加者等が気軽に洲本市の住環境を体験できる拠点宿泊施設の整備
南あわじ市	○うず潮世界遺産登録学術調査 ・ 学術的価値の検討と本格調査を行うための要点の洗い出しを実施 ・ 地元の盛り上がり醸成するため、住民向け講演会の開催を他団体と協力して実施
淡路市	○温浴施設用竹チップボイラーの試作開発 ・ 伐採した竹の消費先として、一定量の消費が見込める温浴施設用竹チップボイラーを開発し、淡路市内で実証実験を開始

## ウ 活動応援事業

### (7) 事業概要

住民グループ、NPO、企業、行政等が協同し、あわじ環境未来島構想に沿って実施する先導的・モデル的な取組を支援する。

### (4) 実施主体

県

### (5) 主な助成内容（平成26年度）

- ・ 先端的エネルギー実証設備を活かした地域活性化事業
- ・ 風力を利用した照明機器の研究・導入
- ・ 大麦や大蒜栽培を主とした村起こし活動など

#### (4) 域学連携地域活力創出モデル事業

##### ア 事業概要

洲本市の豊かな自然と生活文化、農漁業と食、再生可能エネルギー等を活用した新たな事業モデルの構築と、それを有機的に連携させたツーリズムの企画実践等を、地域と大学等との連携により行うことで、地域産業の創出と強靱化、観光を通じた地域活性化を図る。

##### イ 実施場所

洲本市内

##### ウ 実施主体

洲本市

##### エ 主な取組内容

- ・ 地域の課題と魅力の調査に基づく事業・ツアー企画提案
- ・ 小水力発電実現可能性検討
- ・ モニターツアーの企画・実施



大学生がツーリズムの企画を提案

#### (5) デンマーク・ボーンホルム島との連携

##### ア 事業概要

海外の先進地域と連携を図り、様々なノウハウを学ぶとともに、淡路島で実践して得られた成果を他の地域に提供することを通じて広く国内外に貢献する。

##### イ 実施主体

県、洲本市、南あわじ市、淡路市、(一財)淡路島くにうみ協会

##### ウ これまでの取組

###### (7) 駐日デンマーク大使の淡路島訪問（平成23年6月）

再生可能エネルギー活用の先進国であるデンマークの離島と連携を図るため、メルビン駐日デンマーク大使に淡路島を視察いただき、ボーンホルム島との連携についてアドバイスを得た。

###### (イ) あわじ環境未来島国際シンポジウムの開催（平成24年2月）

- ・ 地域活性化総合特区（あわじ環境未来島特区）として指定を受けたことを記念し、本格的な取組のキックオフとするため、ボーンホルム島のイエンセン副市長などの関係者を招いた国際シンポジウムを淡路市で開催した。
- ・ イエンセン副市長と県淡路県民局長、地元3市長との間で、淡路島とボーンホルム島が再生可能エネルギーの活用などの分野において、情報交換を通じて今後も交流方法についての話し合いを継続していくことで合意した。



ボーンホルム島

**(ウ) 駐デンマーク日本国大使特別講演会の開催（平成25年2月）**

佐野利男駐デンマーク日本国大使を招いて、デンマークのエネルギー政策や離島における再生可能エネルギー活用の取組を学ぶ特別講演会を洲本市で開催した。

**(エ) デンマークへの調査交流団の派遣（平成25年10月）**

淡路島と調査交流に向けた協議を進めているデンマーク・ボーンホルム島との交流・連携の具体化を図るため、あわじ環境未来島構想推進協議会構成団体等の関係者計13名で構成する調査交流団を結成し、現地を訪問した。

現地では、ボーンホルム市長を表敬訪問するとともに、関係者と今後の交流のあり方に関する協議を行い、「引き続き再生可能エネルギーの活用などの分野において、両島が情報交換を継続し続けることが重要であることを確認した」旨の覚書を締結した。



**（主な訪問先）**

- ・ ボーンホルム島（ボーンホルム市庁舎、バイオガスプラント、パッシブハウス）
- ・ コペンハーゲン（廃棄物コージェネレーション発電所、風力発電協働組合）等



**(オ) デンマーク・ボーンホルム島関係者の淡路島訪問（平成26年4月）**

ボーンホルム島での調査・交流

今後の交流に向けた淡路島内の実情調査とエネルギー関係プロジェクトの視察のため、ボーンホルム島関係者（フレデリック・ロンベアー氏（ボーンホルム・ビジネスセンター所長）及びオーレ・スコー・モーテンセン氏（東部電力株式会社代表取締役社長））が淡路島を訪問し、あわじ環境未来島構想のプロジェクトを視察して各プロジェクトに対する今後の連携その他交流のあり方について協議を行った。

**(カ) エネルギー自立島サミットの開催（平成27年3月）**

「エネルギーの持続」をテーマに、デンマーク・ボーンホルム島のウィニー・ゴスブル市長などの関係者を招聘し、エネルギー関連の課題解決に向けて議論を行った。

## 「淡路花博2015花みどりフェア」関連事業

「あわじ環境未来島構想」の取組を一つのテーマとする「淡路花博2015花みどりフェア」の関連事業として、淡路花博15周年記念事業実行委員会と共催で実施した。

### (1) エネルギー自立島サミット

「エネルギーの持続」をテーマに、再生可能エネルギーの先進地であるデンマーク・ボーンホルム島のほか、長崎県対馬、沖縄県宮古島の関係者を招聘し、エネルギー関連の課題解決に向けて議論を行った。

開催日 平成27年3月22日(日)

場所 淡路夢舞台国際会議場

参加者数 253人



エネルギー自立島サミット

### (2) ワークショップ～淡路地域の交通のあり方を考える～

かつての島の交通を振り返りつつ、現在の新たな取組についても学び、将来に向けた淡路島の交通のあり方、移動手段の確保に向けて様々な世代で議論するワークショップを開催した。

開催日 平成27年4月12日(日)

場所 淡路夢舞台国際会議場

参加者数 20人



ワークショップ

### (3) EVアイランドあわじ札所巡りスタンプラリー及び巡礼祭

低炭素で環境にやさしい電気自動車(EV)の普及を推進するため、あわじ環境未来島構想のプロジェクトが進む施設などを札所と見なし、EVで札所を巡るスタンプラリーやEVユーザーの交流の場として巡礼祭を開催した。

開催日 平成27年5月17日(日)

場所 ウェルネスパーク五色GOGOドーム

参加者数 135人(EV台数 65台)



EVアイランドあわじ巡礼祭

### (4) 「しあわせ島」Awaji～ハッピープロジェクト～

「くにうみ神話」で、イザナギ・イザナミの神が結ばれた淡路島を「日本ではじめての結婚式が挙げられた所」として「しあわせ島Awaji」と呼び、「しあわせな島」＝「暮らしたい島」へと転換させ、移住者の増加へとつなげるため結婚式等を挙げるイベントを開催した。

開催日 平成27年4月18日(土)、19日(日)

場所 淡路夢舞台

参加者数 134人(挙式 2組)

実施主体 NPO法人ソーシャルデザインセンター淡路



アウトドアウェディング

### (5) 体験!あわじ“島暮らし”

淡路島での田舎暮らしを志向する都市住民に対して、住まい探しや生活習慣、仕事など様々な相談に応じる臨時相談所の開設や交流人口を増やすため「農作物の収穫体験ツアー」、「先輩移住者との交流会」を開催した。

・臨時相談所の開設(淡路夢舞台)

平成27年3月21日～5月30日(毎週土曜日)

・交流イベントの開催

開催日 平成27年3月28日(土)～29日(日)ほか

場所 ウェルネスパーク五色ほか

参加者数 50人

実施主体 NPO法人あわじFANクラブ



先輩移住者との交流